

訓読のきまり (教科書P115)

- ① 訓読…漢文を日本の「文語文」を用いて翻訳すること。
- 句読点・送り仮名・返り点↓「訓点」
 - 原文のまま(訓点がついていない文)↓「白文」
 - 句読点・送り仮名・返り点などを加えた文↓「訓読文」
 - 訓点に従って、漢字仮名交じり文に書き改めたもの↓「書き下し文」

② 送り仮名の原則 (必携P12)

- 「文語文法」に従い、「歴史的仮名遣い」で書く。
- 文意上必要な「助詞」・「助動詞」に当たる語を補う。
- 用言(活用語)は、活用語尾を送る。
- 副詞・接続詞は最後の一字を送る。

③ 書き下し文の表記の原則 (教科書P116)

- 「漢字仮名交じり文」で表記する。
- 送り仮名は、「文語文法」に従い、「歴史的仮名遣い」で書く。
- 日本語の「助詞」・「助動詞」に当たる漢字は、「平仮名」で書く。
- 「置き字」は、表記しない。
- 引用や会話文の終わりに「と」を送る

音読や演習問題を解く中で
覚えるといイネ。



《返り点の種類》

- 1 「レ」点
- ・【連続する二字】について【前後】の順を入れ替える。
 - ・【すぐ下の一字】から返る。

ㄨ :: 転レ禍 為レ福。 ↓ 書 禍ひを転じて福と為す。

- 2 「一・二」・「三」点

- ・【離れた位置にある】二字について、【下】から返って読む。
- ・【二字以上を隔てて返る】

ㄨ :: 懸ニ羊頭ニ売ニ狗肉ニ。
↓ 書 羊頭を懸げて狗肉を売る。

ㄨ :: 送ニ元ニ使ニ安ニ西ニ。
↓ 書 元二の安西に使ひするを送る。

- 3 「上」・「中」・「下」点
- ・【一・二点】が着いた部分を【挟んで】、下から返って読む。

ㄨ :: 悪ニ称ニ人之悪ニ者上。
↓ 書 人の悪を称する者を悪む。

《返り点の組合せ例》

ㄨ :: 百聞不レ如ニ一見ニ。
↓ 書 百聞は一見に如かず。

ㄨ :: 吾日三省ニ吾身ニ。
↓ 書 吾日に吾が身を三省す。

* 「レ」は、二字以上の熟語に返って読む場合。